

法政大学における NGDLEへの取り組み

2018年2月28日

法政大学 情報メディア教育研究センター 藤井聡一郎
soichiro.fujii.dc@hosei.ac.jp

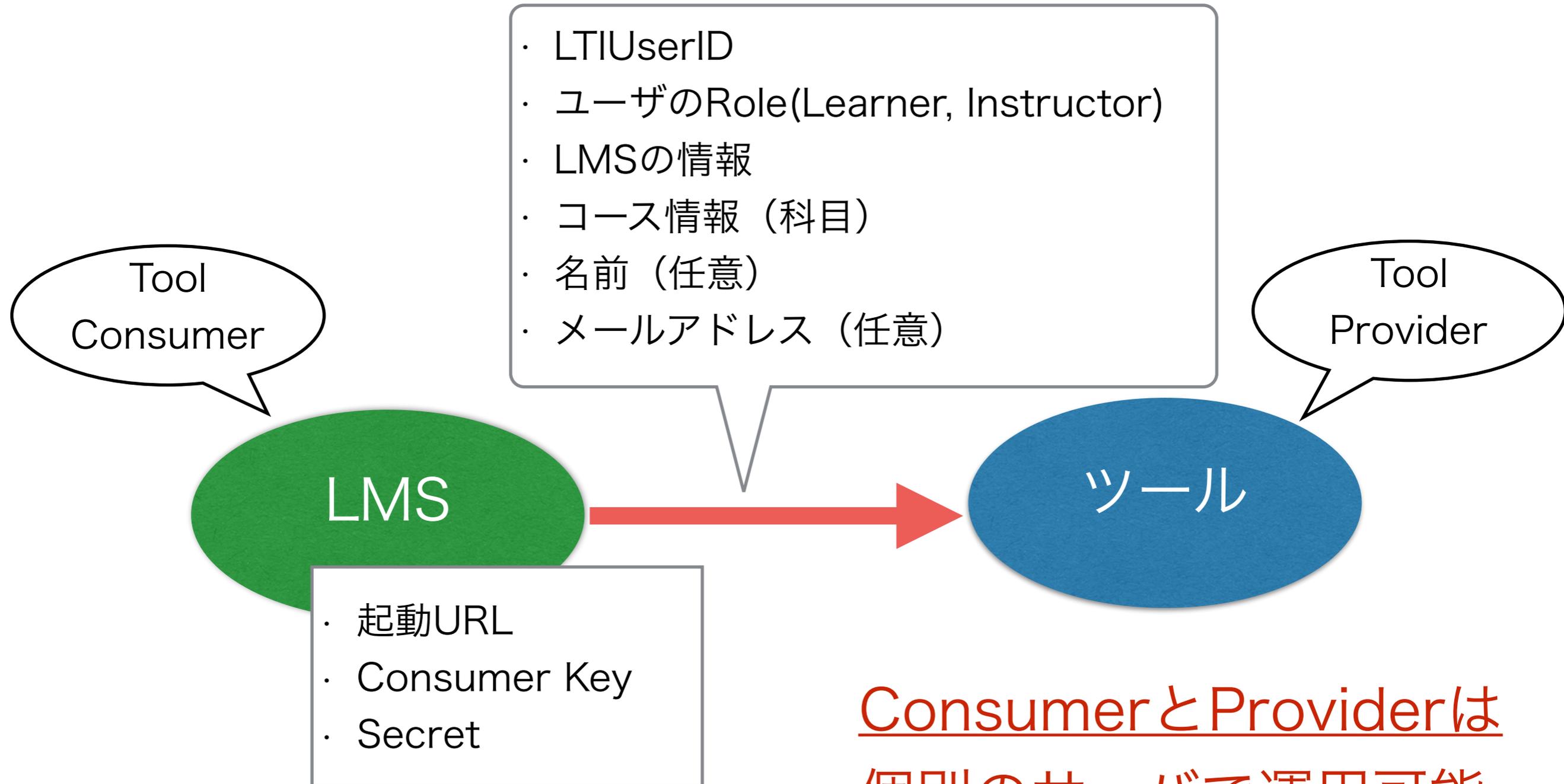
目次

- ・ LTIとは
- ・ 法政大学でのLTIツールの利用事例
- ・ 法政大学版NGDLEの構想
- ・ 日本版NGDLEの可能性と課題

LTIとは

- Learning Tools Interoperability
- IMS Global の定めるLMSと教育支援ツール連携のための標準規格
- **NGDLE**の主要な要素
- 法政大学では**v1.0**を利用
v1.0では基本的にLMS→ツールの1方向のみのデータの受け渡しが可能

LTIの概要



ConsumerとProviderは
個別のサーバで運用可能

LTIツールの起動画面

1. 授業支援システムへログイン (統合認証アカウント)
2. メニューからLTI対応ツールを選択
3. ツールのページが開かれる (認証不要)



The screenshot shows the interface of the LTI tool. The top navigation bar includes "My Workspace" and several course-related tabs. The left sidebar contains various utility icons, with a red arrow pointing to the "peas" icon. The main content area displays course information and a table of questions.

Annotations:

- 名前 (Name):** Points to the user name "藤井 聡一郎" (Tsuji Soichiro) in the top right corner.
- Role:** Points to the "管理者メニュー" (Admin Menu) button, which is circled in red.

タイトル	進行状況	作成日時		
第1回発表会	75	2017/7/18 10:04:08	設問を編集する	参加者を修正する
Processing発表会	60 / 16	2017/6/13 01:04:10	設問を編集する	参加者を修正する

法政大学 情報メディア教育研究センター

法政大学で利用しているLTIツール

- 法政大学で開発したもの

- max+

Javaの自習用システム。
JUnitによる回答の自動チェック機能を持つ。

- peas

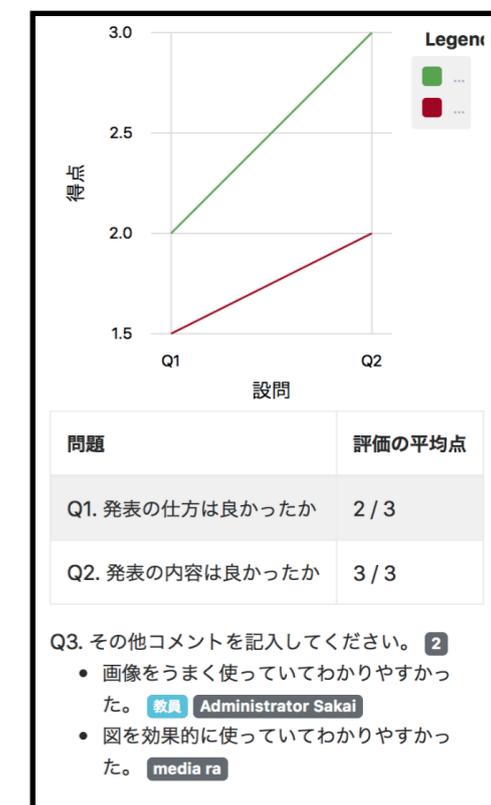
学生間の相互評価を支援するシステム。
プレゼンの授業や、ゼミ、卒研発表会などで利用している。

- 試験的にSaaSとして提供しています。興味のある方はお問い合わせください。

- 商用製品

- Cengage オンラインテキスト

- NetLearning MultiVerse (オンラインテキスト)

本研究はJSPS科研費 15K00493の助成を受けたものです。
 研究分担者一覧 (敬称略)
 熊本大学 喜多敏博, 名古屋大学 出口大輔

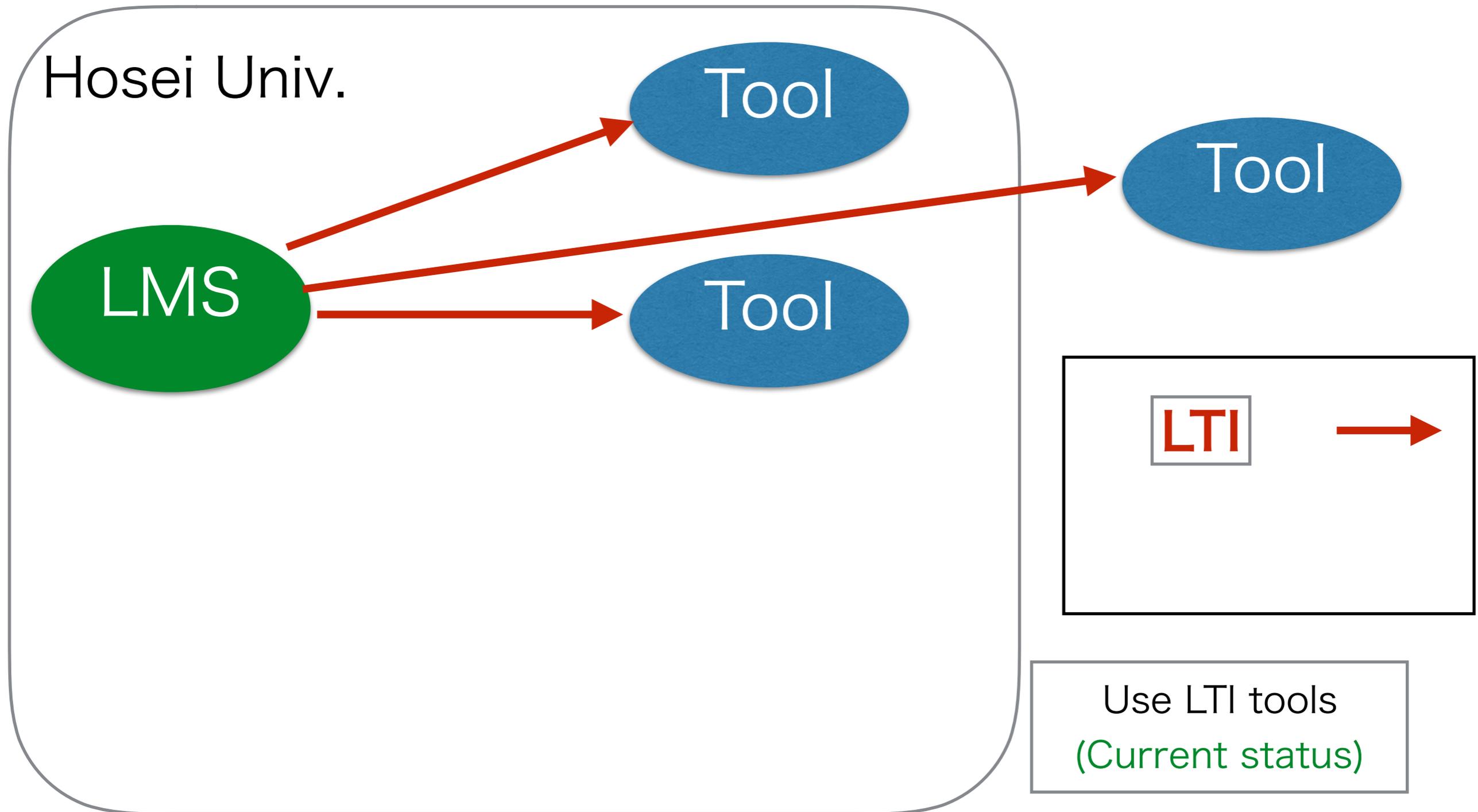
LTIツールの利用状況

商用サービス

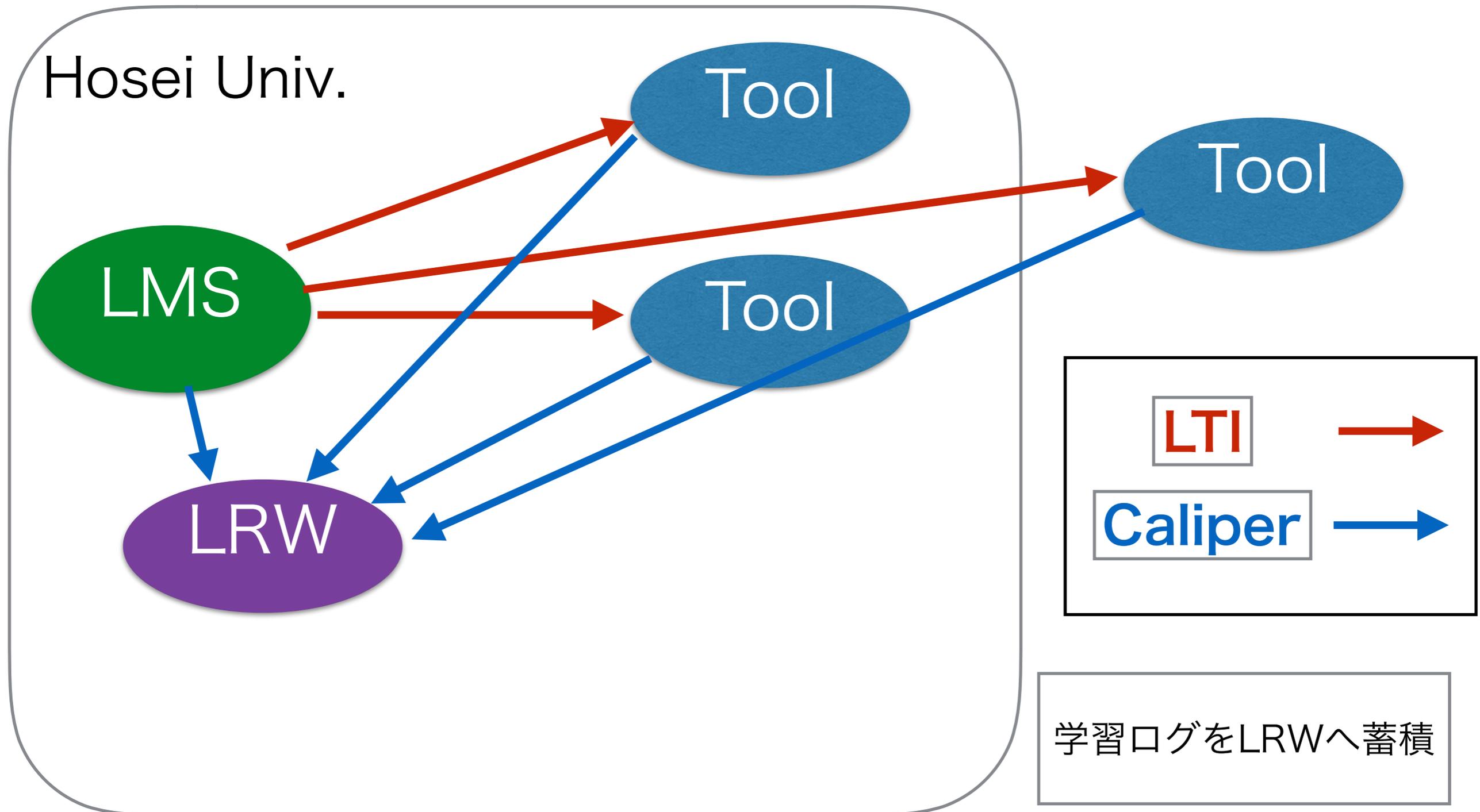
他大学

Tool Provider	Tool Consumer	利用者
max+	法政大学 授業支援システム	理工学部
	検証用Moodle	熊本大学
	検証用Sakai	名古屋大学
peas	法政大学 授業支援システム	理工学部、経済学部、法学部
	センターSakai	成蹊大学
	情報科学部Moodle	情報科学部
Cengage オンラインテキスト	センターSakai	デザイン工学部
NetLearning Multiverse	センターSakai	デザイン工学部

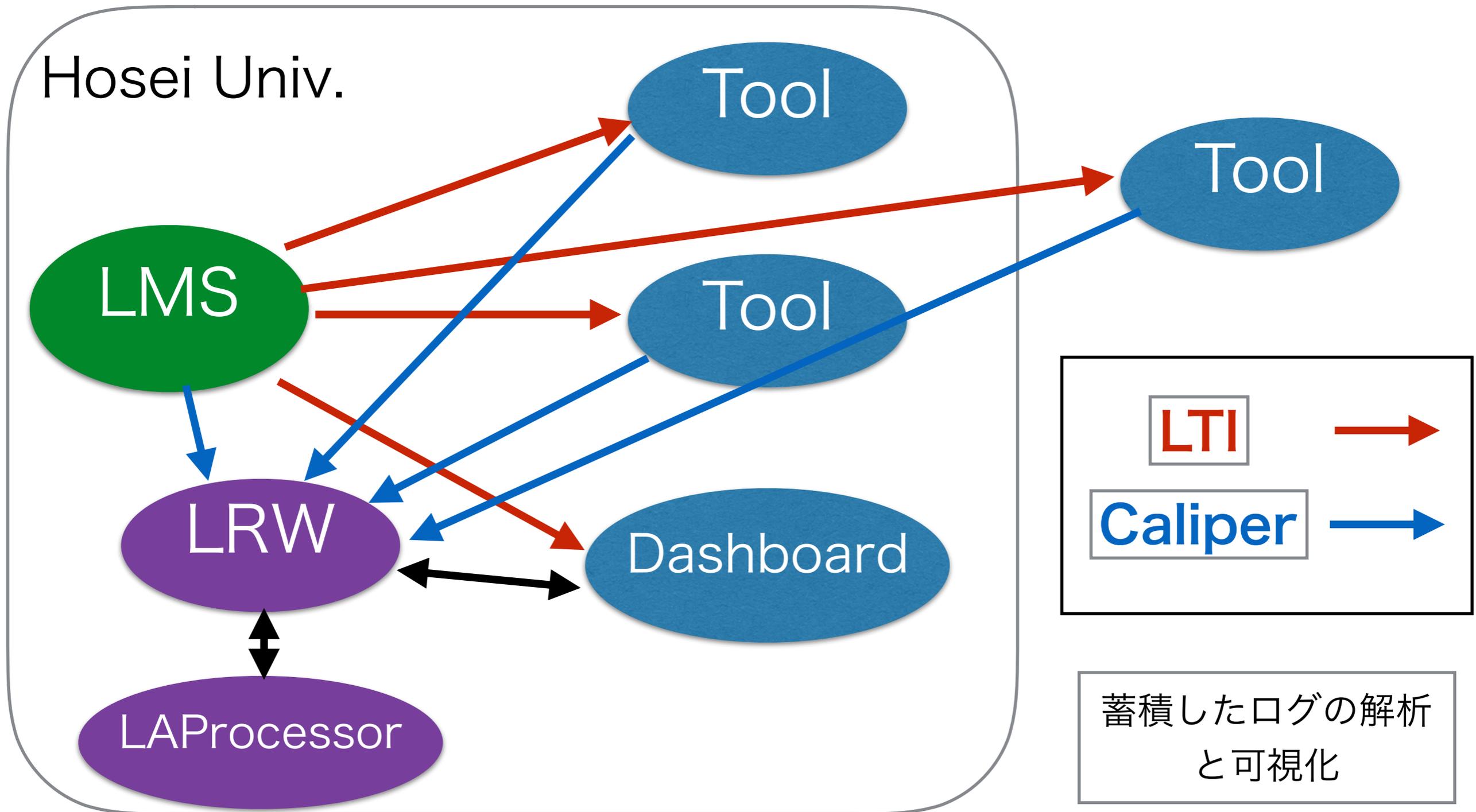
法政大学版NGDLEの構想 Step 1



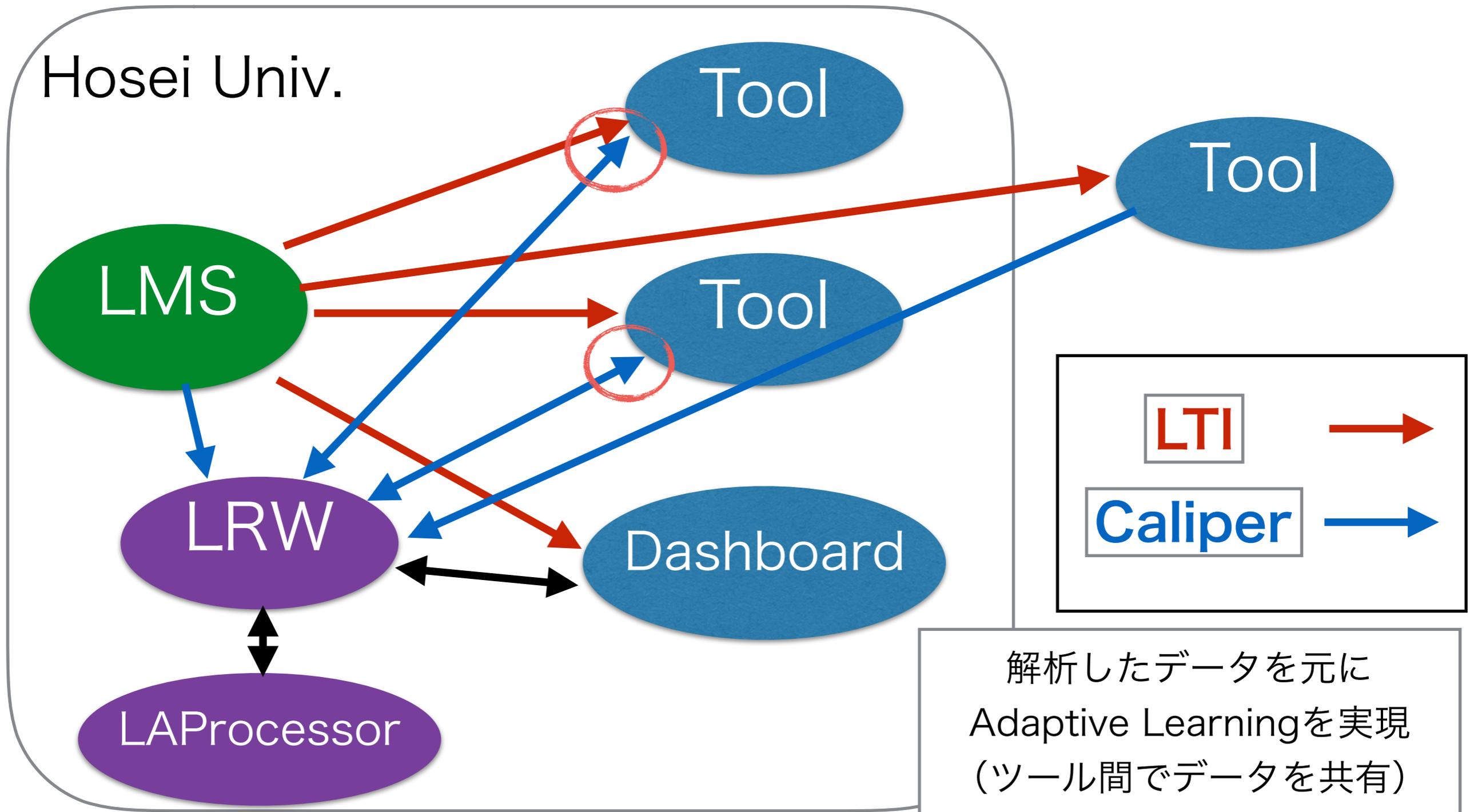
法政大学版NGDLEの構想 Step2



法政大学版NGDLEの構想 Step3



法政大学版NGDLEの構想 Step4



日本版NGDLEの可能性と課題

- ・ LTIにおけるToolの開発および商用ツールの連携は現状の環境でも実現できた。
- ・ 法政大学における課題
 - ・ Sakai 2.7を利用しているため、古いバージョンのLTIモジュールしか利用できない
 - ・ 法政大学にて開発したLTI対応ツールの認証を取得したい。
- ・ 一般的な課題
 - ・ 日本向けのLTI対応ツールの少なさ
 - ・ システムのCaliper対応
 - ・ 具体的なLearning Analyticsの実践